

ここで見られる植物：トベラ (*Pittosporum tobira*)

この常緑低木は、かつては魔を払う力があると信じられていました。冬の最後の日（伝統的な日本の暦に従うと、通常は2月3日）に毎年行われる行事、節分に、ある地域では家の扉（とびら）の側に植物を置いており、この名前はそれに由来します。この行為は、お祝いや装飾的な風習として現在まで続いています。

トベラは主に海岸沿いに生育していますが、時には川岸や内陸部の低い山地で育つこともあります。この植物は雌雄異株で、成長すると2～3メートルの高さに達します。細長い楕円形の葉の端は滑らかで、端に向かって下向きに丸まっています。6月頃、枝の端にたくさんの白い花が咲き、徐々に白から黄色へと変わっていきます。トベラは丸い果実をつけ、10月から11月ごろに熟すと灰色がかった茶色になり、それが3つに割れて10粒ほどのネバネバした赤い種が現れます。